

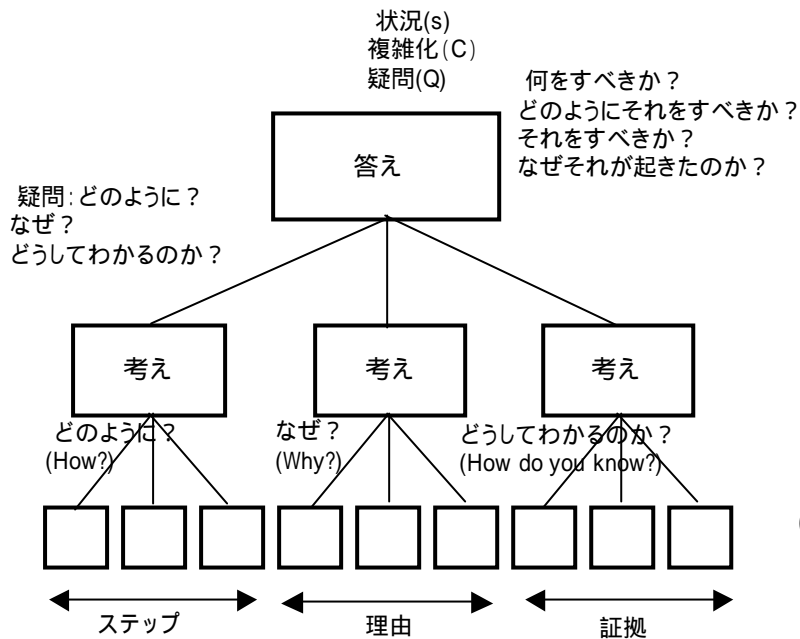
## コースコンセプトの要約

導入部は読み手に対し、読み手が既に知っていることを語る

主ポイントは読み手の疑問に答える  
(ほとんどの場合、読み手の疑問は4つのいずれかになる)

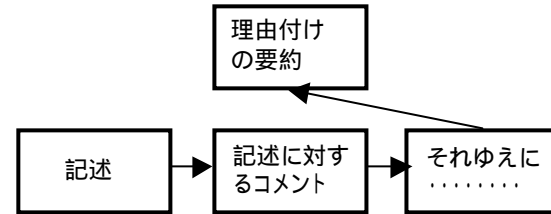
主ポイントに対し、読み手の頭の中に3つの疑問のどれかが発生する

ピラミッドは、縦方向に、読み手との間でQ & Aを繰り返す  
(Q)どのように? (How?) (A)ステップ  
(Q)なぜ? (Why?) (A)理由  
(Q)どうしてわかるのか? (How do you know?) (A)証拠



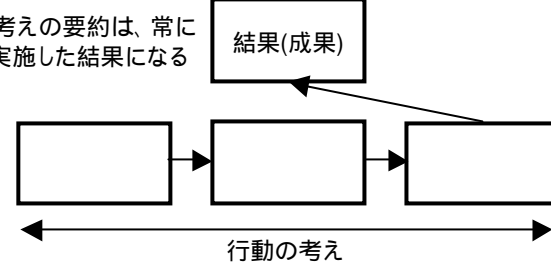
**MECE**  
Mutually お互いに  
Exclusive 排他的で  
Collectively 集めると  
Exhaustive 全てを尽くす

演繹的な理由付けでは、第2ポイントが第1ポイントについて意見を述べる

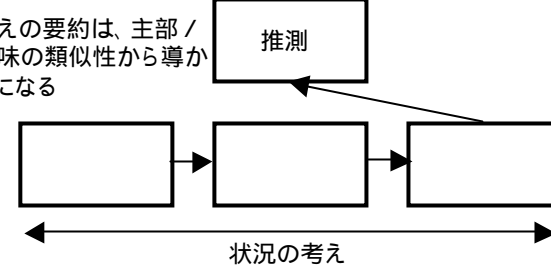


帰納的な理由づけでは、各ポイントが同じ種類の考えになる

行動の考えの要約は、常に行動を実施した結果になる



状況の考えの要約は、主部/述部/意味の類似性から導かれる推測になる



**ファラシー**  
(ロジックの誤り)  
一般論の拡大  
性急な一般化  
後知恵(雨男)  
相反する前提  
(神が持てない石を作る)  
同情への訴え  
誤った類推  
(状況の違うものからの類推)  
事実に反する仮説  
井戸に毒を入れる  
(彼は嘘つきだ、と先に言う)

帰納的な理由づけは、3つの構造のいずれかを反映している

